

夢中熱中青春ライフ!



17

秋田三鶏保存会へ山田記念館へ

「比内鶏」の名前は、比内地方（現在の大館市と比内町、またその周辺地域）という地域名に由来します。今回は、この比内鶏をはじめ、声良鶏、金八鶏の三種を後世に継承しようと奮闘している秋田三鶏保存会にスポットをあて、成田松太郎会長に伺いました。

偉業引き継ぎ

原種を保存・育成

比内鶏は昭和八年、声良鶏は十年、金八鶏は三十四年に、それぞれ保存会ができました。そして昭和四十七年、これらを統合して「秋田声良鶏比内鶏金八鶏保存会」（通称・秋田三鶏保存会）ができたんです。

良鶏は国の、金八鶏は県の天然記念物に指定されていますが、この指定運動に奔走し、研究と保存・繁殖に尽力したのが、会の先達である故・山田定治さんです。保存会の拠点であるここ山田記念館は、もとは山田さんの米倉だったんですよ。それを寄贈していただいて直し、山田さんが残した多くの資料を、その偉業をたたえて収蔵・展示しているわけです。

三鶏ひとくちメモ

声良鶏・昭和12年に国の天然記念物指定。日本三大長鳴き鶏の一つに数えられています。

比内鶏・昭和17年に国の天然記念物指定。縄文時代からの流れをくむこの地方独特の地鶏。野鶏に近く、美味・美麗。

金八鶏・昭和34年に県の天然記念物指定。シャモとの交配による突然変異種。少し短気。

現在、会員は市外・県外の人を含んで六十人余。全盛時は倍ぐらいいて、歴代大館町長が会長を務めてくれていました。会の最大目的は、三鶏の原種を保存・育成すること。昭和四十年からはふ化事業も始めました。また、資料の収蔵・展示のほか、皆さんに親しん

でもらえるよう毎年春に展覧会を開催し、PRしています。



左から、関口さん、成田会長、片岡さん、山田さん。会の中核です（記念館で）

見学者

80%が県外から

会では、天然記念物として指定されたときの基準に合った鶏（標準鶏）を残そうとしているのですが、ふ化した原種鶏の中で基準に合うのは一割にも達しませんから大変なんです。しかし、先人が残してくれた大きな遺産ですから、がんばって守っていかねばと思っています。昨年、記念館へ見学に訪れた人は九百九十八人でしたが、少し寂しいのはその八割近くが県外からの人たちだったことです。地元大館の人に、もっと三鶏を知ってほしい、そしてできるなら飼っていただき、理解を深めてもらえることを願っています。

十和田発 → 大館着

前略

大館市民になりました

18

▽今回は水門町（館下）の芦野敏邦さんご一家です。
Q・ご家族は何人ですか？

女房と子供三人の五人です。一番上の子は五歳で、今、桂城幼稚園へ通っています。二番目は三歳、下の子は九カ月、みんな女の子なんです。

Q・どちらから転入されましたか？

青森県十和田市からで、こっちに来たのは今年の三月下旬です。出身は私が三戸町で、妻は三戸の近くの田子町という所です。

Q・大館の印象はいかがでしたか？

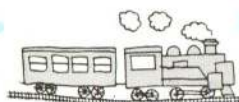
来たときは寒いような気がしました。夏は暑いですがね。三戸も盆地なので似ていますよ。十和田の夏は、"やませ"が吹くせいでしょうか、涼しかったです。

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか？

それほどありません。ただ、今までの所ではお盆に煮しめとかを食べるんですが、大館ではきりたんぽを食べるというような話を聞かされて、少し違うかなと思いました。市販されている比内鶏のスープですが、あれは十和田でもおいしいってうわさになってましたね。

Q・大館にどんなことを望みますか？

子供たちを連れて遊べるところがないです。また、若い人がやっぱり少ないですね。空港ができれば変わると思うんですが、企業をどんどん呼べばいいと思います。あと、家の周りの側溝にフタがないのは、子供たちを見て少し不安です。



敏邦さんと圭子さん、左から長女の友美ちゃん、三女瑞恵ちゃん、二女香織ちゃんです